

地域のお便り

YAMAZAKI
SHINNOSUKE

開校迫る！ 中部中学校区小中一貫校

中部中学校、元城小学校、北小学校が一緒になった施設一体型の小中一貫校の開校の時期が、いよいよ迫ってきました。

予定は、来年の4月。それぞれに歴史のある学校の再編のため、様々な想いや議論があったと思いますが、平成25年からは地域、保護者、学校の代表者による開校準備会が組織され、現在は新校舎と体育館を建築しているところです。なお、その校舎や体育館の一部には、FSC認証の天竜材のスギやヒノキを使用。学校施設でのFSC認証材の使用は全国初の事例となる見込みで、対外的にも大きく注目されています。

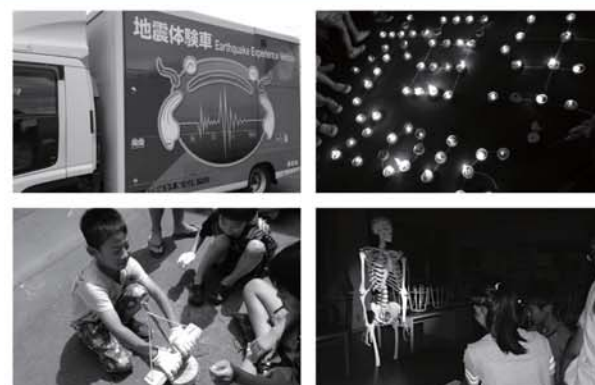
浜松市の進める小中一貫教育のモデルとなるべく、残りの建築工事の着実な進捗と、新校舎における子ども達の健やかな学びを心からお祈りします！

今年も開催。親子で学校に泊まっちゃおう！

6月下旬、私がPTA会長を務めている地元小学校で、親子学校宿泊体験2016を開催しました。これは、相互の交流を図ることはもちろん、テレビも携帯もない非日常空間で1日を過ごすことにより、防災意識を向上させることを目的としているイベントで、もう10年以上も続いています。

そして今年は、新たなプログラムも追加。例えば、ようやく晴れて実現した地震体験車、ツナ缶ランプでのキャンドルナイト、部品から手作りに挑戦した火起こし、白熱した人間防犯かるた大会、お化けが出た夜間学校探検などなど、それぞれに好評の声を頂くことができました。

ちなみに今回は、対象が拡大した県教育委員会の通学合宿補助金制度を活用。こういう活動を積極的に支援し、地域の活動の活発化を促していきたいですね。



しんのすけアプリ 増殖中!!

おかげさまで、「しんのすけアプリ」の登録者数が250名を超えました！身近な政治の情報をタイムリーにお届けしていますので、まだ未登録の方は、是非お試しください！

主な コンテンツ

- プロフィールや政策、写真集
- しんのすけチャンネル
(ブログ・テレビ・ラジオ・機関誌・漫画)
- 新着☆情報、議会録画中継



アプリはこちらから！▶

山崎真之輔プロフィール

- ◆ 34歳三児の父親
- ◆ 浜松北高等学校、名古屋大学法学部卒業
- ◆ 元衆議院議員 鈴木康友(現浜松市長)秘書
- ◆ 浜松市議会議員(2期6年間)
- ◆ 静岡県議会議員(2期目)
- ◆ 所属党派: ぶじのくに県民クラブ
- ◆ 所属委員会: 建設委員会(副委員長)
子どもいじめ防止条例案検討委員会

しんのすけ活動記録

4月 5日	会派街頭県政報告会
4月 7日	相生小・東部中入学式
4月 上旬	浜松まつり各地会所開き
4月25日	子どもいじめ防止条例案検討委員会
5月 3日~5日	浜松まつり
5月12日	ファルマバレープロジェクト視察
5月18日	県議会5月臨時会
5月20日	子どもいじめ防止条例案検討委員会
5月22日~27日	東南アジア視察
6月 2日	浜名湖総合環境財団 設立25周年記念式典
6月18日	平和祈念法会
6月21日	子どもいじめ防止条例案検討委員会
6月23日~7月19日	県議会6月定例会
6月25日~26日	親子学校宿泊体験2016
6月28日	一般質問で登壇
7月 1日	浜松市 市制施行105周年記念式
7月11日~12日	建設委員会
7月21日~22日	委員会県内視察(東部地域)

浜松市と静岡県を結ぶ!!若きカジュアル政治マガジン

静岡県議会議員

山崎しんのすけ 第12号 通信

平成28年8月発行

本気が
違う!!



山崎しんのすけ事務所 | 〒430-0852 浜松市中区領家1-11-21 TEL.053-461-1020 FAX.053-465-6982
ホームページ→ <http://www.shin-sk.net/> 山崎しんのすけ 検索

本会議 直虎バッジ とともに登壇!



去る6月28日、県議会6月定例会の舞台に一般質問者として登壇しました。県議会議員になってから4回目となる今回も、ICT(情報通信技術)やグローバル社会といったマクロの課題から、馬込川の氾濫防止対策などの身近でミクロな課題まで、幅広く取り上げる事ができたと思っています。

また、それを応援してくれたのが胸元の直虎バッジ。ご存知、来年の大河ドラマの主人公である直虎とともに、これからも県政の発展に向けて前進してまいります!

県政ラジオ 2年目に突入!

昨年7月から始まったラジオ番組、遊佐ちえみの「聞いちゃえ! しずおかの政治」が、2年目に突入しました!

1年目は、県政の様々な分野に光を当て、私ができるだけ分かりやすく解説するといった形式で進めてきましたが、ここから先は、なるべくその分野に詳しい専門家をお招きし、より充実した内容をお届けできるよう心掛けてまいります。また、引き続きコスプレにも挑戦していきます(笑)

2年目も、沢山のリスナーに聴いて頂けるよう頑張りますので、是非ご試聴くださいね!



FM Haro!
76.1MHz
毎週17:00~17:30





一般質問

のラインナップをご紹介します

表紙で触れた6月28日に行った一般質問の議論の内、主なものをご紹介します。
静岡県議会の議員の持ち時間は25分間しかありませんが、中でも7つのテーマを取り上げ、中身の濃い論戦ができました！

質問項目



- 1 RESAS(地域経済分析システム)の活用について
- 2 ICT-BCPの普及啓発について
- 3 外国人技能実習生への支援について **PICK UP 2**
- 4 グローバル人材を育む環境整備について
- 5 児童虐待の防止策について **PICK UP 3**
- 6 精神障害者の地域移行支援について **PICK UP 1**
- 7 馬込川における大規模氾濫への減災対策について

PICK UP 1



質問

昨年9月の鬼怒川決壊の映像は大きな衝撃を与えたが、その数日前には浜松でも、南部地域を中心に床上・床下浸水の被害に見舞われた。しかしこれは昨年に限らず、ここ数年は毎年続いている事態であり、万が一、市の中心部を流れる馬込川で氾濫が起きた場合、多大な被害の発生が想定される。

そこで、県では河川を整備するハード対策を今後進めていくとしているが、鬼怒川決壊の際に避難指示が遅れ、多くの住民が逃げ遅れたことも指摘されたことを踏まれば、ハード対策のみならず、ソフト対策もあわせて強力に進めるべきではないか。

PICK UP 2



質問

5月にベトナムを訪問し、外国人技能実習生を送り出す機関を視察したところ、まだまだ日本に対する人気は高いことが分かった。しかし、近年のこの制度をめくっては、違法行為や人権侵害等もたびたび指摘されているほか、本県で活躍する約7000人の技能実習生の中には、言語や文化の壁にぶつかるといった問題を抱えていることも多い。

一義的には国が対応すべきテーマではあるが、本県としても将来のことを考えた上で、何らかの支援を施すべきではないか。

※外国人技能実習生・日本で培われた技術等を開発途上国へ移転し、人材育成を支援することを目的とした国際貢献の一つ。

答弁

県では、これまでも主要河川において、避難の判断等の目安となる水位に到達したことを関係機関に通知するとともに、住民にもパソコンやスマートフォンで雨量や水位などの情報をリアルタイムで提供しているが、今後はより住民目線のソフト対策を検討する。

また、馬込川については最優先に取り組む河川に位置づけ、最大規模を想定した洪水浸水想定区域の指定、洪水時家屋倒壊危険ゾーンの公表、さらにはタイムラインの導入を来年の梅雨時までを目標に、浜松市と連携して取り組む。

※タイムライン・・・「いつ」「誰が」「何を」の「か」をあらかじめ時系列で整理した防災行動計画。

答弁

実習生の多くが言語や文化の壁に苦労していて、昨年度も、受験者の13%にあたる255人が試験に合格できていない。

そこで今年度は、全国で初めて、実習生を対象に日本語教育を実施していく。また、帰国後の就職に不安を抱える実習生と、「現地で労働力の確保」を課題とする海外に進出している県内企業とのマッチングも実施することで、実習生への支援を行っていく。



PICK UP 3



質問

一向に減らない児童虐待。ここ数年の児童虐待相談対応件数は、全国、静岡県ともに増加し続けており、平成26年度の統計では過去最高を記録している。

本県から痛ましい児童虐待を根絶し、すべての児童が健全に成長していくため、今後どのような取り組みを進めていくのか。



答弁

これまでも、児童相談所職員の増員や研修による対応力の向上に努めているが、今年度からは、現場対応する職員への指導や教育を担うスーパーバイザーを増員、県内で計10人の配置をした。また、関係機関の連携強化として、児童相談所に配置している警察関係者を県内3カ所に増員した。

さらに、「児童虐待防止・静岡の集い」を開催するなど、地域全体で子供を守る体制の充実を図っていききたい。

1人でも多くの“犠牲者”を減らすために

静岡県では、第4次地震被害想定で推計された人的被害を8割減らすため、平成25年に「地震・津波対策アクションプログラム2013」を策定し、現在、全庁を挙げて地震・津波対策に取り組んでいます。

そして、3年が経過したこのほど、これまでの対策実施による減災効果が以下のように公表されました。

	想定死者数(当初)	想定死者数(H27)	減災効果
建物倒壊・火災	約9,300人	約8,500人	▲約800人
津波	約96,000人	約63,100人	▲約32,900人
山・崖崩れ	約200人	198人	▲2人
合計	約105,000人	約71,000人	▲約34,000人

特徴的なのは、津波対策の減災効果が非常に大きいことです。これは、浜松市沿岸域における防潮堤建設、津波避難タワーやマウンド、または命山といった対策が県内各地で進んだことが影響していると思われます。

もちろん、そうは言っても、今回の結果は机上の計算で出されたものに過ぎません。しかし、それでも私は、この3年間で県と市町が協力して行ってきた方向性は、決して間違いのないものだと思います。今後も、政治の最重要課題である命を守る政策を、これまで以上に前に進めてまいりたいと思います。



浜松市沿岸域防潮堤整備事業 篠原工区本体工事竣工報告会



真の目～過去の教訓を決して無駄にしない!～

上記のような中間検証が進められている最中の4月、熊本地震が発生しました。この地震では、阪神淡路大震災と同様に、建物の倒壊による死者が全体の約7割を占めています。東日本大震災以降、津波対策に関心が注がれてきた5年間でしたが、今改めて、耐震補強の大切さを知らされた方も多いのではないでしょうか。

静岡県では、TOUKAI-0という木造住宅の耐震補強を支援する施策を展開していますが、県全体の耐震化率は、まだ約83%にとどまっています。

今後は、耐震シェルターや、防災ベッドの購入にも支援の対象を広げていきますが、過去に起こった悲しい災害を決して忘れることなく、その教訓を後世に伝えていかなければなりません。

